

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第2回高松市M I C E 振興戦略策定懇談会
開 催 日 時	平成28年8月16日（火）14時00分～15時45分
開 催 場 所	高松市役所3階 32会議室
議 題	(1)M I C E の考え方の整理 (2)高松市M I C E 振興戦略（仮称）の骨子案について (3)誘致推進体制について (4)その他
公開の区分	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 （12名）	安部委員、井上委員、角谷委員（副会長）、 鹿庭委員、紀伊委員、四之宮委員、土居委員、 西村委員、三村委員、宮武委員、 村山委員（会長）、矢田委員
傍 聴 者	0人 （定員5人）
担当課及び 連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

会議の冒頭、委員の半数以上が出席しており、会議が成立していることを確認し、議事に移った。

(1) M I C E の考え方の整理

本戦略の策定支援業務を受託した凸版印刷株式会社の廣江真氏より、高松市がこれから目指すべきM I C E 戦略についてご説明いただいた。

(委員)

- ・ビジネスに関係する会議などを開催して、イノベーションを起こしていくのが目的で、M I C E は手段であるという話だった。
- ・個別の会議などに対して、特別の措置をしていくことなのか、それとも恒常的に取り組んでいくことがM I C E 振興になっていくのか。

(廣江氏)

- ・両方必要である。仙台市で開催された国連防災世界会議が良い例で、仙台市が努力しないと国連防災世界会議は、国連関係者だけの会議になっていた。
- ・よく「国際会議が開催されているとニュースで見るが、街中で外国人を見かけない。」という質問を受ける。国際会議などは警備が厳しいこともあって、参加者が会場やホテルから出ない。それをいかに地元に出てきてもらうかの仕掛けが必要。大学で基調講演をしたり、高校にノーベル賞級の人に訪問してもらったり。
- ・M I C Eの周辺事業には、資金やアイデアが必要で、一次的なイベントとして取り組むのでは、長続きしない。恒常的に対応できるような仕組みが必要で、そういった仕組みをどうやって作るかが、M I C Eの戦略的な考え方になってくる。

(2) 高松市M I C E振興戦略(仮称)の骨子案について

事務局から、高松市M I C E振興戦略(仮称)の骨子案の概要について、資料を基に説明し、基本戦略にかかる部分について委員に意見を求めた。

(委員)

- ・都市計画の分野が専門なので、その観点から意見したい。先日、大西市長のM I C Eに関する新聞記事があった。M I C Eエリアとしては、ウォーターフロントがメインということだが、その記事では、ウォーターフロントと、栗林公園から空港までの縦のラインをあわせて、「高松Tゾーン」という考え方が掲載されていた。
- ・M I C Eを誘致する場所としては、ウォーターフロントかもしれないが、参加者が入ってくるルートを考えて縦のラインも非常に大事。
- ・この「高松Tゾーン」のエリアというのは、都市計画的にいうと、高松市が目指しているコンパクトシティのコアとなる部分とも重なっている。M I C Eの振興を通じて、コンパクトシティも同時に目指していく、両者が相乗作用を持つような形で進められればいいのではないか。
- ・「高松Tゾーン」という考え方は、M I C E振興戦略を考えていくキーワードになる。
- ・また、コンベンションのエリア自体は、J R高松駅周辺が中心ということになると思うが、高松市民は、屋島が好きで景観も誇りに思っている。
- ・屋島の山上に新しい施設も造られるとのことで、ユニークベニューとしての利用価値も今後出てくるのではないか。

- ・一方で、中心部からの移動は便利とはいえない。移動手段と施設整備というのは、あわせて考える必要がある。
- ・大学関係者としての意見だが、学術分野、学会というのも誘致の目標の一つになっているが、学会は持ち回りなので、スケジュールは立てられる。
- ・大きな国際会議となると、数年に1回しかないかもしれないが、M I C E が恒常的に開催されれば、それが産業になる。国内の大規模な学会等を誘致する意味があるのではないか。
- ・学会等の開催は、大学の人間は結構大変で、お金がない中で工夫してやっている。うまく協力できれば貢献できる。

(委員)

- ・戦略の方向性、基本戦略というところで、先ほど、学会等の持ち回りの話があったが、高松観光コンベンション・ビューローでは、そういった情報は持っている。
- ・ただ、四国なり、中国四国なりで開催されるときに、先生方に、「高松市で開催したい」と手を挙げてもらうことが大事なのだが、先生方も研究が忙しく、開催の負担も大きい。
- ・主催者の方々（学会だと先生、協会とかだと主催の本部や役員をされている方）を見つけるのも必要。
- ・そういった方々の手を取ってあげる組織作りになれば、基本戦略は良いかと思う。

(会長)

- ・基本戦略に係る意見が出てきている。こういうことも生かしていけば良いなどの意見は、どうか。

(委員)

- ・基本戦略の中で、M I C E のあるべき形態として、国際会議や学会に取り組むとしている。
- ・大学等の連携については、岡山市や長崎市で事例があるので、M I C E 誘致の連携や効果等の情報を得た上で、検討すると、先ほどの課題の解決にもなるのではないか。

(会長)

- ・香川大学、或いは高松大学と協定を結んでいくとしたら、市なり、高松観光コンベンション・ビューローなりがどのようなことを支援するなら協定を締結しようとなるのか。実際に大学と協定を締結する際には、詳細に検討する必要がある。

(委員)

- ・主催者側に「高松市を選ぶ理由」をはっきりと意識してもらうためにも、高松市という街のブランディングや、高松らしさ、魅力という部分をどう発信していくのか、ということがMICE誘致にも深く関係していると思う。
- ・高松市には瀬戸内海があり、マザーポートとしての機能もある。文化や産業など、外からいろいろと入ってくるが、それを包み、認めるという寛容性の象徴となっているのではないか。
- ・高松市としてのコンセプト作りも重要。

(委員)

- ・市長の談話等を見ていると「田園都市」という言葉が多用されているように感じるが、MICE振興が元々持つビジネス的な意味合いを考えると、少なからず隔たりを感じる。市の方針としてはどのようなイメージを持っているのか。

(事務局)

- ・高松市の魅力を外に発信する時に、キャッチコピーが多く存在することは事実で、「田園都市」もその一つ。
- ・市として、開催エリアとしては、やはりウォーターフロントをイメージしている。屋島についても、ただの観光地の一つではなく、高松の財産の一つとしてアピールしていきたい。高松の個性や魅力を語る時に、瀬戸内海を切り離して語ることはできないと考えている。

(委員)

- ・「MICEは手段であって、目的はイノベーションである」との見解が示された。高松市はMICE振興をどのように活用するのか、共通認識を持つ必要がある。
- ・行政としての着地点や目的が分かりづらいので、「行政としてどこを目指すのか」を明確にして欲しい。

(廣江氏)

- ・MICEはイノベーションを起こすための道具であり、これからのMICEは産官学市民との連携が必要。
- ・また、MICEは都市戦略でもある。高松市が今後、日本やアジア、世界をどのような分野でいかにリードしていくのか。高松市には、コンテンツとして魅力がたくさんある。都市戦略として、イノベーションを起こすのにMICEは利用できると考えている。

(会長)

・ M I C E を手段として利用しながら、イノベーションが生まれやすい土壌を作っていく。そのための役割分担をどうしていくのか。

(委員)

・ 基本戦略で、「従来型の M I C E ではなく…」というところが、従来型の M I C E を否定しているように見える。「従来型も含めて…」という言い方の方がいいのではないか。

・ 経済効果というところもあるので、必ずしも否定をしないでもいいのではないか。

(会長)

・ かなり言葉をまとめてしまっているところもあるので、M I C E の定義を、例示もしながら、説明することが必要かもしれない。

・ 観光やインバウンドは、この戦略には含めないのかもしれないが、全く否定するものでもないし、また別のところで議論するものかもしれない。

・ 頂いた意見を参考に素案作成となる。気になる点があれば、また事務局に御意見を頂ければと思う。

(3)誘致推進体制について

事務局から、M I C E 誘致推進体制について、① M I C E 誘致推進協議会（仮称）における市の役割や関与、②協議会と高松観光コンベンション・ビューローとの役割分担、③高松観光コンベンション・ビューローに求められる役割などについて委員に意見を求めた。

(会長)

M I C E 誘致推進協議会（仮称）について、その方向性と、現在の状況について、オブザーバーである香川県より説明を頂きたい。

(オブザーバー)

・ M I C E 誘致推進協議会（仮称）は、各組織が持っている M I C E 振興に有効な情報の一元化が大きな役割の一つ。また、M I C E 誘致に当たって、関連組織や関係各位が連携を取れる仕組みづくりが必要と考えている。

・ ただ、現状、県として検討は進めているが、具体的な組織図はまだ描けていない。

・高松観光コンベンション・ビューローなど関係団体や、市などの行政組織との役割分担も大事だろうと考えている。役割を明確にしながら、連携を取りつつ、情報提供いただくとか、支援していくとか、MICE誘致を推進していきたい。

(会長)

・重要な役割を担っている高松観光コンベンション・ビューローから、現状の御意見を頂きたい。

(委員)

・主催者の意見を反映して検討できる体制を作らないと、継続的な取り組みにはならないのではないか。

・基本的なMICEの行動指針（主催者目線なのか、地元目線なのか）のようなものの必要性を感じる。役割分担とともに、考え方の整理をしないといけない。

・組織の体制的なことと言えば、今後を見据えたコンベンション・ビューローの人材育成計画のようなものも必要。

・高松観光コンベンション・ビューローのMICEを担当している職員が足りていない。中核都市を調べてみたが、他都市では6、7人いるところ、高松観光コンベンション・ビューローは4人であったり、プロパー職員が1、2人いるところ、高松は0人であったり。中長期的な人材育成計画が必要ではないか。

・また、実際に国際会議を主催している有識者の生の声を聞いてみるというのはいかがでしょうか。

・意識向上という意味でも、この場だけではなく、MICEの関係者向けに、研修、セミナー、ワークショップ等を開催してみてもどうか。機運も高まると思う。

(委員)

・高松市のMICE振興の誘致に関連する補助金などの予算はどうなっているのか？数年前より他都市は予算が上がっているように思うが、高松市の現状はどうか。

(委員)

・他都市で耳にする話も含めて言えば、高松市の補助金などの予算は、数年前と変わらず高い水準と思う。全国でも五本の指に入るレベルではないか。ただ、手続きが煩雑だという課題はある。

(会長)

・分析を見ると、補助金は高いが、逆に「補助金頼り」になってしまっている側面もある。

(委員)

- ・私は、産官学市民の連携という部分で、市民の意識を変えていくという立場だと認識している。
- ・様々な機会を通して、瀬戸内の魅力を含めた高松市の強みを、おいでいただいた方（観光客も含めて）に、印象付けることができ、それが次の機会に繋がっていくのであれば、価値の高いことだと思う。高松ならではのホスピタリティを見つけていきたい。

(会長)

- ・体制については、県で検討中ということで、11月に向けて、状況変化があれば、報告いただきたい。それを組み込んだ形での高松市の戦略になっていくと思う。

(4)その他について

(事務局)

- ・本日いただいた意見を参考に、戦略（素案）を作成。第3回高松市MICE振興戦略策定懇談会は、11月に開催する予定。第3回では、課題への対応策や戦略（素案）の取りまとめを予定している。
- ・なお、議論の中で御提案のあった、ワークショップの実施なども検討したい。実施の際には、懇談会委員の皆様にも御協力いただきたい。

(会長)

- ・いまの事務局からの説明、また全体について、御意見等がありましたら、また事務局に御意見を頂ければと思う。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

(閉会)